

令和5年度 事業報告書

- ◇ はじめに . . . P 1
- ◇ 子供の家 . . . P 2～5
- ◇ 愛童園 . . . P 6～9
- ◇ ちぐさ . . . P 10～12
- ◇ あ い . . . P 13～14
- ◇ 丸の内保育園 . . . P 15～18
- ◇ 三里保育園 . . . P 19～22

社会福祉法人 高知県福祉事業財団

－ はじめに －

令和6年元日に能登半島を襲った最大震度7の地震は多くの犠牲者と大きな被害をもたらした。さらに、4月17日には豊後水道を震源とする地震が発生し本県西部においても震度6弱というかつてない揺れを観測した。当法人においても、これらの災害を確実に近づきつつある南海トラフ地震への警鐘と受け止め、各施設において実践的な訓練を重ねるなどしてこどもたちの安心・安全をさらに追求していく必要があると考えている。

また、長期間にわたり社会生活に大きな影響を与えた新型コロナウイルス感染症は、令和5年5月に感染症法上の位置付けが第五類に移行し、コロナ前の日常を取り戻しつつある一方で、インフルエンザは通年にわたり流行し各施設の行事にも影響を及ぼした。今後も様々な感染症に対し十分な注意を払い、その予防や対策に万全を期しながら運営を行っていかねばならない。

令和5年4月にこども基本法が施行され、同年12月にはこども大綱が公表された。こども基本法において「こども」とは、「心身の発達の過程にある者をいう。」とされており、こども大綱の基本方針では、その発達の過程は、その置かれた環境にも大きく依存し、こどもによって様々であるが、それぞれのこども・若者の状況に応じて必要な支援が、特定の年齢で途切れることなく行われ、乳幼児期から学童期・思春期・青年期を経て成人期への移行期にある若者が自分らしく社会生活を送ることができるようになるまでを、社会全体で切れ目なく支えると示されている。

当法人においても、各施設で関わっているこどもの年齢や置かれた環境は異なるものの、その場面や状況に応じて最も適切と思われる支援を選択・実践し、一人ひとりのこどもが着実に成長の過程を辿っていけるよう職員が一丸となって日々取り組んでいかなければならないと考えている。

令和5年度の各施設の主な取り組みとして、子供の家では、高知県社会的養護自立支援事業を活用し園外で生活する4名と園内対象者1名の計5名への自立に向けた支援を進めたほか、心理療法担当職員や家庭支援専門相談員など専門職種での一層の情報共有を図るなどにより職員の専門性の向上に努めた。愛童園では、家庭的養育を推進するとともに、施設の多機能化を進めるため、児童家庭支援センターについて県内他施設の視察など検討を進め、令和6年7月開設に向け手続きを進めた。また、家庭との連絡がほとんどない児童に対してフレンドシップファミリーの活用も積極的に行った。ちぐさでは、令和4年度に策定した「中・長期ビジョン」及び「経営計画」を踏まえ、自立支援計画へのPDCAサイクルの導入など入所者支援の充実に努めたほか、職員数の見直しなど健全な経営のための取組も進めた。

丸の内保育園では、新型コロナの影響で中断していた保護者参加による夏祭りを復活させたほか、保護者参観についても期間を分散させるなど感染対策にも配慮しながら再開を果たした。また、三里保育園においても同様に、恒例の施設慰問を再開し、2か所の老人保健施設を訪問。児童による和太鼓演奏、よさこい踊り、手遊び等を披露し、利用者の方々に喜んでいただいた。

新たな人材を確保するため、児童養護施設の処遇職員及び栄養士、また、保育園の看護職員の採用試験を実施したが、いずれの職種も受験者は極めて少ない結果となった。児童福祉分野の雇用環境は引き続き厳しく、優れた人材の確保は大きな課題として直面している（令和5年度は子供の家4名及び三里保育園に1名の正職員を採用）。

以下、高知県福祉事業財団5施設は、児童福祉法やこども基本法等の理念を踏まえ、令和5年度に掲げた事業計画に次のとおり取り組んだ。

昭和24年の開園以来75年が経過した。この間の子どもを取り巻く環境は大きく変化し、それにもない入所理由も複雑かつ多様化している。開園後に子供の家から社会に巣立っていった児童、あるいは家庭等に復帰した児童は合計1,043名に及んでいる。

平成28年に児童福祉法が大幅に改正され、権利の主体者をより明確に児童と位置付けるとともに、さらに家庭支援が強化されることとなった。

子供の家では児童福祉法や子どもの権利条約の理念のもと、平成28年12月に策定した子供の家の運営理念、運営目標に基づき児童の最善の利益のために、養育及び自立支援に取り組んできた。

◎令和5年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

(1) 児童の権利擁護

- ① 権利擁護に関する研修に参加し、養育の質の向上に努めた。また、専門職が参加した支援会等を積極的に行い、児童の権利擁護について確認し、自立に向け協議を重ねた。
- ② 意見箱の設置や、学期ごとにブロック単位で職員と児童が話合う機会を設けることで、児童の声を反映させる環境整備に努めた。

(2) 児童の養育・支援

心理療法担当職員・家庭支援専門相談員・個別対応職員・自立支援担当職員等の専門職を配置し、それぞれが連携し各児童に応じた専門的な支援を行った。

◆医療的ケア

- 医療的ケア対象児童数 20名
- 全児童延べ受診者数 926名
- 主な医療機関 医療センター・高知大学医学部附属病院・愛宕病院
療育センター・近森病院等

◆心理療法

- 心理療法対象児童数 13名
- 年間延べ実施日数 259日
- 1日当たり平均実施時間 1時間

◆被虐待児個別対応職員の活動状況

- 個別対応対象児童数 7名
- 個別対応年間実施日数 100日
- 1日当たり平均実施時間 30分

◆ 中学・高校等を卒業した者の進路状況（令和5年度）

進学先		就職先	
【高校】			
東高校	2名	県内清掃業	1名
城山高校	1名		
高知国際高校	1名		
【大学】			
岡山大学	1名		

（3）家庭支援と自立支援の強化

- ① 社会福祉士の資格を持つ職員等3名を家庭支援専門相談員として配置し、体制の充実を図るとともに、関係機関と連携し家庭支援に取り組んだ。
- ② 高知県社会的擁護自立支援事業を積極的に活用し、園外で生活する対象者に対して支援を行いながら、それぞれの課題解決を図った。
- ③ 自立支援担当職員・家庭支援専門相談員が連携しながら施設退所者の状況を把握し、アフターケアの充実に努めた。

（4）事故防止と危機管理

- ① 防災マニュアル・BCPを随時見直すとともに、年間避難訓練計画に基づき火災、地震、津波を想定し、様々な形で避難訓練や消火訓練を実施した。
- ② 定期的に備蓄食料等の点検を行い、地域の避難所としての役割を果たすため、日頃より積極的に地域活動に参加し、地域との関係を深めた。
- ③ 防災対策マニュアル・BCPをもとに、南海トラフ大地震が起きた際の対応について研修を行い、地震時の各職員の役割について確認を行った。

（5）家庭的養育の推進

より家庭的な養育を目指し、小規模グループケアを6ブロックとするとともに、各ブロックに専任職員を3名配置し、地域分散化・高機能化、多機能化を見据え職員のスキルアップに取り組んだ。

（6）関係機関連携と地域支援

- ① 地域の地縁組織や関係機関との連携のもと、地域の子育て支援のニーズや情報の収集に努めた。
- ② 10自治体と業務委託の契約を締結し、ショートステイの受け入れを行った。

（7）職員の資質と施設運営の向上

- ① 階層別研修や専門職研修へ積極的に職員が参加し、スキル、キャリアアップを図った。
- ② 職員会、ケース検討会等の各種会議を適宜行い情報の共有化を図り、施設運営の向上に努めた。

◆各種研修会等への参加状況

- 中四国養協関係 3回／5名 ○県養協関係 3回／12名
- 各種専門研修 8回／9名 ○子どもの虹関係 1回／1名
- その他 3回／7名
- 園内研修（事例検討会・防災・感染症・AED・新任職員研修など）

◆実習生の受け入れについて

- 社会福祉士相談援助実習 6名
（高知県立大学）
- 保育実習 9名
（高知大学・高知福祉専門学校・うぐるす保育教育学院）
- 里親実習 2名
- 介護等体験 1名（同志社大学）

◆年度別児童・職員数

各年度3月31日現在

年 度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
定員（暫定）	70名 (51名)	70名 (53名)	70名 (52名)	70名 (52名)	70名 (51名)
在籍児童数	47名	44名	41名	44名	42名
職員数 (臨時・パート含む)	39名	38名	38名	39名	41名

◆令和5年度 月別児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	44	44	43	43	43	43	43	43	43	43	42	42
入所	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
退所	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2

◆学年別児童数

令和6年3月31日現在

	就学前		小学校						中学校			高校			その他	計
	3歳未満	3歳以上	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年		
男	0	1	5	1	3	4	2	0	0	0	1	4	4	1	1	27
女	0	2	0	0	1	0	0	2	1	1	3	2	1	1	1	15
計	0	3	5	1	4	4	2	2	1	1	4	6	5	2	2	42

*令和5年度末自立支援事業対象者4名

◆入所主訴理由別児童数

令和6年3月31日現在

入所理由	人数	構成比
養育困難	16人	38%
身体的虐待	7人	17%
心理的虐待	3人	7%
性的虐待	0人	0%
ネグレクト	16人	38%
合計	42人	100%

◆一時保護委託の状況（受託先：児童相談所）

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
令和5年度	0名	0名	0日
令和4年度	3名	3名	101日
令和3年度	2名	2名	205日

◆子育て支援短期利用事業（契約先：高知市・南国市・安芸市・土佐市・室戸市・いの町
佐川町・田野町・日高村）

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
令和5年度	6名	6名	13日
令和4年度	5名	5名	32日
令和3年度	2名	3名	5日

◆令和5年度 主要な年間行事

- 4月 小・中学校家庭訪問
- 5月 子どもの日（キッチンカー来園）
- 6月 輪抜け祭
- 7月 浦戸湾のんびりクルーズ招待
- 8月 ぶどう狩り（寄贈に変更）
- 9月 内科検診
- 10月 インフルエンザ予防接種（1回目）
- 11月 インフルエンザ予防接種（2回目）、中央ライオンズみかん狩り招待
- 12月 市長サンタ来園、クリスマスバイキング
- 5/1月 正月・新年夕食会（各ブロックで対応）、日赤赤野奉仕団来園
- 3月 退園祝い外食
- 通年 「散髪奉仕団・風」による散髪奉仕(毎月第4月曜日)
高知FD試合招待、子ども劇場招待、その他の招待行事
※宿泊キャンプや川遊び等の行事は中止した

開園以来 63 年余りが経過する中、子どもと子育てを取り巻く環境はもちろん、児童養護施設の置かれた状況も大きく変化してきた。この間に愛童園から社会に巣立った、あるいは家庭等に復帰した児童は 336 名を数える。

令和 5 年 5 月の新型コロナウイルス感染症の 5 類移行に伴い、コロナ感染前の状況に戻せるものは戻しつつ、小規模ブロックによる家庭的な養育環境において、個々の子どもの特性に応じた児童の心身の健やかな成長と社会的な自立を目指し、関係機関や地域社会と連携を図りながら次のとおり取り組みを進めた。

◎令和 5 度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

(1) 児童の権利擁護

- ① 職員会や各種研修会を通して、養育者としての倫理観や責任感を持って児童に対応できるよう資質の向上を図り、日々の養育のなかで「こどもの最善の利益」を常に意識して養育にあたった。
- ② 支援にあたっては、児童の意見を聞いた上でのルール作りや自立支援計画の作成、意見箱の設置等により、児童の意見を表明できる環境整備に努めた。

(2) 児童の養育・支援

- ① 在園児童の半数以上が心理療法を必要としており、発達障害や知的障害のある児童に対し、自立支援計画の中に児童の心理的支援目標を設定し、処遇職員会等での協議や情報共有などを通して施設全体で計画的な支援に取り組んだ。
- ② 日常的な生活援助と併せて、学習の定着を図るため宿題等の支援を行うとともに加力学習の時間も設定し学力の定着を図った。また、児童が自ら選択できるよう必要な情報の提供や助言を行うとともに、児童の希望したところに進学できるよう関係機関と連携し支援を行った。

◆被虐待児個別対応相談員の活動状況

- 個別対応児童数 11名
- 個別対応年間実施日数 50日
- 1日当たり平均実施時間 30分

◆心理療法

- 心理療法対象児童数 13名
- 年間延べ対応日数 230日
- 一人当たり平均実施時間 45分

◆令和 6 年 3 月に中学校、高校を卒業した児童の進路状況

児童	区分	性別	進学	就職	その他	進路等の状況
1	高校	男	○			県内専門学校
2	高校	女		○		県外企業(サービス業)

(3) 家庭支援と自立支援の強化

- ① 家庭支援専門相談員を窓口として児童と家庭との関係調整を図った。また、児童と家庭の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを児童相談所と調整しながら実施した。
- ② ブロック職員や自立支援担当職員が、児童の自立に向けた情報の提供や援助、自立生活が安定していない卒園生への助言、見守り支援を継続して実施した。

(4) 事故防止と安全対策

- ① マニュアルに基づき、事故や感染症の予防を図った。特に、新型コロナウイルスへの対応は、体調管理、手洗い、咳エチケット等の感染防止対策に徹底して取組み、一部児童や職員が感染する状況となったが感染が拡大することはなかった。
- ② 防災対策マニュアルに基づき消火訓練、避難訓練を定期的実施した。
- ③ 毎職員会において、危険な箇所等の確認を行うとともに、交通安全についても意識の徹底を図った。

(5) 社会的養育の推進

- ① 家庭的養育を推進するとともに、施設の多機能化を進めるため、児童家庭支援センターについて県内他施設の視察など検討を行い、令和6年7月開設に向け手続きを進めた。
- ② 家庭との連絡がほとんどない児童に対してフレンドシップファミリーの活用を積極的に行った。また、里親関係の各種会合、研修会に参加するとともに、関係機関と連携のもと里親実習生を受け入れ、里親育成にも努めた。

(6) 関係機関連携と地域支援

- ① 要保護児童対策地域協議会への参加や市町村福祉担当部所と連携し、地域の子どもや子育て世帯の情報共有に努め、子育て短期支援事業(ショートステイ)の受入れなどを行った。
- ② 学校と定期的な支援会の実施や児童相談所との連携のもと、児童の支援状況や家庭も含めての情報の共有に努めた。
- ③ 香南市地域貢献連絡協議会、香南市人権教育研究協議会、香南市補導センター運営委員会などへの参加を通じて、地域課題の把握や解消に協働して取り組んだ。

(7) 職員の資質と施設運営の向上

- ① 参加型の研修も増えてきたことから、職務に影響のない範囲で研修の機会を確保し職員のスキルアップを図るとともに、園内研修も適宜企画し職員の資質向上に努めた。
- ② 情報共有システムを活用し、日々の予定や児童の記録を職員が共有し、職員会や朝礼などで確認することで児童の処遇に反映させるとともに、事務の効率化も図った。

◆各種研修会等への参加状況

- | | | | |
|--------|--------|----------|-------|
| ○全養協関係 | 3回／4名 | ○中四国養協関係 | 3回／7名 |
| ○県養協関係 | 3回／6名 | ○県外専門研修 | 3回／3名 |
| ○その他研修 | 9回／16名 | | |

また、全員参加の園内研修(感染症対策、救命、風水害、防犯)のほか、毎月、避難・消火訓練を実施した。

◆年度別児童・職員数

各年度3月31日現在

年 度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
定員(暫定)	30名 (28名)	25名	25名	25名	25名
在籍児童数	21名	20名	25名	22名	20名
職員数	20名	22名	23名	25名	28名

※職員数:臨時・パートを含む

◆令和5年度 月別児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	20
入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2

※1日付入所者は当月、1日付退所者は前月の人数に含めている

◆学年別児童数

令和6年3月31日現在

	就 学 前		小 学 校						中 学 校			高 校			そ の 他	計
	3歳 未満	3歳 以上	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	1 年	2 年	3 年	1 年	2 年	3 年		
男	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	3	1	0	0	8
女	0	2	1	1	1	2	1	2	2	0	0	0	0	0	0	12
計	0	2	1	1	4	2	1	2	3	0	0	3	1	0	0	20

◆入所主訴理由別児童数

令和6年3月31日現在

入所理由	件 数	構成比	入所理由	件 数	構成比
父母の行方不明	1	5.0%	虐 待	4(3)	20.0%
父母の離婚	0	0.0%	経済的理由	2	10.0%
父母の拘禁	1	5.0%	精神疾患・入院	0	0.0%
父母の傷病・入院	2	10.0%	措置変更	8	40.0%
父母の養育困難	2(4)	10.0%	その他	0(1)	0.0%
			合 計	20	100.0%

()内は、措置変更児の当初措置理由

◆一時保護委託の状況(受託先:児童相談所)

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
令和5年度	1名	1名	44日
令和4年度	0名	0名	0日
令和3年度	1名	1名	2日

◆子育て短期支援事業(受託先:香南市、安芸市、香美市、芸西村、室戸市)

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
令和5年度	5名	11名	33日
令和4年度	1名	4名	17日
令和3年度	0名	0名	0日

◆令和5年度主要な行事

- 4月 新年度編成、花見、新人研修、照明LED化工事
- 5月 香南市要保護児童対策協議会代表者会、小学校修学旅行
- 6月 苦情解決第三者委員報告会、水防訓練、施設実習(高知龍馬学園)
- 7月 七夕祭り、西山地区夏祭り、児相サポートケア
- 8月 ブロック旅行、消防訓練、施設実習(高知学園短大)、園夏祭り
- 9月 園内研修(救命講習)、中学校体育祭、香南市地域貢献連絡協議会(愛童園施設見学)、施設実習(豊岡短大)
- 10月 幼稚園・小学校運動会、町民運動会、園内研修(感染症対策)、
- 11月 ハロウィン行事
- 12月 開園記念日、クリスマス会、餅つき
- 05/1月 お正月、消防訓練、卒園生旅行、ミニ運動会
- 2月 節分豆まき、園内研修(防犯)、施設実習(高知福祉専門学校)
- 3月 ひな祭り、児相サポートケア、卒園生食事会、卒業式

昭和22年、戦後の混乱期に恩賜財団同胞援護会高知支部の経営により高知県最初の母子寮として、相生町に「千草母子寮」（定員5世帯）を開設した。

その後、経営組織改組により社会福祉法人高知県福祉事業財団を設立し今日に至り、平成9年児童福祉法の改正により「母子生活支援施設ちぐさ」と名称の変更も行った。

平成10年には現在地に移転新築し、母と子が一緒に生活できる唯一の児童福祉施設として、広く県内外から母子を受け入れてきた。

百石町に移転以来令和6年3月末までに207世帯が入所し、184世帯が自立している。これからも母子の権利擁護に努め、自立に向けた支援に努めていく。

令和5年度は、昨年度策定した「中・長期ビジョン」及び「経営計画」を踏まえ、支援の充実を図るため自立支援計画へのPDCAサイクルの導入や標準的支援マニュアルの作成を行ったほか、安定的な経営を図るため職員数を見直し人件費の削減等を実施した。

◎令和5年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

（1）基本的人権の尊重

「子どもの人権」をテーマに全職員を対象とした人権研修（講師は高知県人権啓発センターから派遣）を実施したほか、苦情解決の仕組みについて母の会において改めて周知を図った。

（2）利用者の安心・安全の確保

安全計画を初めて策定しその推進を図るとともに、避難確保計画については見直しを行い、当該計画に沿った避難訓練も実施した。

（3）自立促進のための支援の提供

自立支援計画へのPDCAサイクルの導入や標準的支援マニュアルの策定を行い、自立に向けた支援の充実に努めた。また、就労支援については、延べ求職者は9名で、そのうち福祉事務所と連携した求人情報の提供や事業所見学等の同行支援も行い（3名）、7名が就職に至った。

（4）子どもが健やかに育つための支援の提供養育・保育に関する支援

例年どおり夏休みやクリスマス時などに子ども向け行事を実施したほか、新たに子供を対象とした料理教室や芋掘り体験も開催した。また、高校進学を控えた中学生の学力向上を図るため教員OBのボランティアによる学習指導も通年実施した。

（5）地域のひとり親家庭等を支えるための役割の発揮

施設の多機能化を検討するため、制度説明会や各種研修等に参加し、改正児童福祉法施行によって新設・拡充される事業等の情報収集に努めた。また、地域ニーズに応え平成19年度から実施している高知県女性相談支援センターからのDV被害世帯の一時保護委託については7世帯、延べ42日間の受け入れを行った。

(6) 職員の専門性と資質の向上

主任に対してOJT推進研修を受講させOJTの充実を図るなど、引き続き人材育成計画や研修計画に基づいた取組を進めた。研修については、オンラインによるものが増加しているが、関係機関の主催する集合研修等にも参加させ、それぞれのスキルアップに努めた(20回のべ21名)。

(7) 施設運営の向上

「経営計画」に基づき、安定的な経営を図るため職員数を見直し、人件費の削減を行った。また、安定的な利用者の確保に向け、新たに作成した施設パンフレットを県内の全福祉事務所及び市町村に配布し施設の周知を図った。

◆年度別入所者数・職員数

各年度3月31日現在

年 度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
定数(暫定)	27世帯 (22)	27世帯 (22)	27世帯 (24)	27世帯 (26)	27世帯 (26)
入所世帯数 入所人数	22世帯 55名	22世帯 55名	22世帯 53名	22世帯 55名	23世帯 58名
職員数	10名	11名	12名	12名	11名

※職員数:契約職員及びパート職員を含む

◆令和5年度 月別世帯数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	22	21	22	23	24	24	24	25	25	24	24	24
入所	0	2	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0
退所	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1

◆令和6年3月31日現在の入所世帯状況 (定員27世帯 暫定26世帯)

入 所 世 帯 の 状 況	入所者数	23世帯58名 (内児童数35名)				
	市内・県内外別世帯数	高知市内 ⇒ 8		県内市町村 ⇒14		県 外 ⇒ 1
	主たる入所理由	D V ⇒ 7		住居の確保 ⇒ 5		養育支援 ⇒ 11
	在所年数	5年以上/8		3~5年/5	1~3年/6	1年未満/4
	就労者の状況	正規 0名		非正規 15名		無職 8名
	母親の年齢構成	10代/0名	20代/4名	30代/9名	40代/7名	50代/3名
	子どもの年齢構成	乳幼児 14名	小学9名	中学7名	高校等5名	大学等0名

◆各種研修会等への参加状況(20回／のべ21名)

- 高知県児童養護施設協議会研修会・・・・・・・・・・・・・・・・ 1名
- 中四国ブロック母協 施設長及び幹部職員臨時研修会・・・・ 1名
- 社会福祉法人会計「初級編」・・・・・・・・・・・・・・ 1名
- 第44回全国母子生活支援施設職員研修会・・・・・・・・・・・・ 1名
- 第41回中国・四国ブロック母子生活支援施設研修会・・・・ 1名
- 令和5年度福祉サービス苦情解決セミナー・・・・・・・・・・・・ 1名
- こうち食支援ネット交流イベント 情報交換会・・・・・・・・ 1名
- 目からウロコの会計と決算書の見方・・・・・・・・・・・・ 1名
- 第66回全国母子生活支援施設研究大会・・・・・・・・・・・・ 2名
- ニューロフィードバックの紹介・・・・・・・・・・・・・・ 1名
- 高知市子育て応援講演会「ステップファミリー」・・・・・・ 1名
- 「性的虐待等に関する専門研修」・・・・・・・・・・・・・・ 1名
- カウンセラーのためのアサーション・トレーニング・・・・ 1名
- 社会的養護を担う児童福祉施設長研修会・・・・・・・・・・・・ 1名
- 令和5年度施設内感染対策研修会・・・・・・・・・・・・・・ 1名
- OJT推進者研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1名
- 予期しない妊娠への相談対応研修・・・・・・・・・・・・・・ 1名
- DV対策連携支援ネットワーク会議及び専門家研修会・・・・ 1名
- こころのサポートセンターガイア・カウンセリング研修・・・・ 1名
- 人権を守り幸せに生きる性の学び研修・・・・・・・・・・・・ 1名

◆主な年間行事

新型コロナウイルスやインフルエンザなどの影響により、引き続き入所者及び職員の行動が制限されることも多かったが、感染防止の徹底を図りながら以下の行事を実施した。

- 4月 母親健康診断（1回目）
- 5月 こどもの日行事（乳幼児向け）
- 6月 浴衣着付け教室（母親・児童向け）
料理教室（児童向け）
- 7月 メイクアップ教室（母親・児童向け）
- 8月 夏休みレク活動（実習生参加、母親・乳幼児向け）
夏休みレク活動（実習生参加、児童向け）
- 10月 母親健康診断（2回目）
- 11月 ちぐさ秋祭り（入所者・退所者・地域住民向け）
- 12月 クリスマス会（入所者・退所者向け）
芋掘り体験（児童向け）
- 2月 節分祭
親子遠足（ジブリ展、莓狩り）
- 3月 ひな祭り行事
進級・進学祝い

子育て支援センター あい

地域子育て支援拠点事業として、子育て中のお母さんお父さんに、親子で楽しく遊べる場所を提供した。また、利用者同士の交流の仲立ちをし、様々な情報提供や育児相談を受け、育児講座を企画し、地域の子育てを応援した。

毎月発行している子育て通信「あい」を利用者に配布し、行事内容等を周知するとともに、高知市の子ども育成課・保育幼稚園課・南部健康福祉センター・潮江市民図書館おもちゃ図書館等にも送付し情報提供を行った。同様にポスターも毎月、毎日屋・マルナカ・ドラッグストア mac に掲示し、また、送付されてきた市や県の情報のほか、子育てサークルの講座やイベント情報を子育て支援のために随時提供した。

県のプレマ net やほっとこうちにも毎月掲載を依頼し広く広報に努めるとともに、独自のホームページでは、講座の内容や毎月の子育て通信を掲載したほか、Instagram では育児講座などの状況を投稿し、参加の呼びかけを行った。

利用者に安心して利用してもらえるよう保育室やテラス、洗面所の清掃・消毒、おもちゃ等の消毒を行い、換気では、天窓の開放、サーキュレーター・空気洗浄機の利用に努めた。また利用者がおもちゃを使用する時使えるアルコールシートを配置した。

「妊婦さんいらっしやい」は昨年度に引き続き年間4回実施した。沐浴指導の実習を取り入れたことにより、昨年度より利用人数は増加した。切れ目のない子育て支援の観点から来年度は妊婦とベビー対象企画も含めて企画していく。

◆職員数 2名(主任指導員及び指導員)

◆令和5年度実績

●令和5年度の登録児童数	143名	(令和4年度 109名)
① 育児相談件 (参考：令和4年度 324件・令和3年度 213件・令和2年度 203件)		
② 育児講座 実施回数 60回 (参加延べ人数 1,108名 大人 526名 子ども 492名)		
③ 遊び場提供日 244日		
●令和5年度施設利用状況	延べ人数 3,444名(大人 1,698名 子ども 1,746名)	
参考 令和4年度	延べ人数 2,095名(大人 977名 子ども 1,118名)	
参考 令和3年度	延べ人数 2,586名(大人 1,254名 子ども 1,332名)	
参考 令和2年度	延べ人数 2,279名(大人 1,128名 子ども 1,151名)	

◆令和5年度育児講座内訳

開催月	講座名
4月	お花遊び・よちよちランド お話の会(パネルシアター) 手づくり(こいのぼり飾り2日間)
5月	お花遊び・よちよちランド・離乳食教室 妊婦さんいらっしゃい・手づくり(ぴよんぴよんガエル2日間)
6月	お花遊び・よちよちランド・育児相談助産師 子どもの歯のはなし 手づくり(七夕飾り2日間)
7月	お花遊び・よちよちランド ピアノ演奏会 手づくり(ペーパースーツ人形制作2日間)
8月	よちよちランド リラックスヨガ 手づくり(キラキラペットボトル2日間)
9月	お花遊び・よちよちランド 育児相談保健師・幼児食教室 手づくり(敬老の日ハガキ2日間)
10月	お花遊び・よちよちランド・育児相談助産師 みんなで遊ぼう(運動会ごっこ) 手づくり(ホースでマラカス作り2日間)
11月	お花遊び・よちよちランド・離乳食教室 妊婦さんいらっしゃい 手づくり(キーホルダー2日間)
12月	お花遊び(クリスマス)・よちよちランド クリスマス会・絵本の日(パネルシアター) クラフトテープでクリスマスツリー作り
1月	お花遊び・よちよちランド 陶芸教室・育児相談歯科衛生士 手づくり(折り紙コマ2日間)・絵本の日(パネルシアター)
2月	お花遊び・よちよちランド・冬のピアノ演奏会 育児相談保健師・妊婦さんいらっしゃい 手づくり(おひな様2日間)・絵本の日(パネルシアター)
3月	お花遊び・よちよちランド こども劇場おはなし会・絵本の日(パネルシアター) 手づくり(新聞紙でミニバッグ作り2日間)

令和5年度は、5月より新型コロナウイルス感染症が5類へ移行となったため、どこまで活動を解除し、いつまで慎重な対応をとるべきか悩みながらの運営となりました。

衛生面は引き続き留意するものの、子ども同士の関わりは限定せず、食事のパーテーションを外し、歯みがきを再開するなど生活の仕方を改めました。また、保護者に保育の様子を見ていただく機会は、一斉にならないよう配慮し、参観週間を設定したり、運動会の2部制をとったり、生活発表会をクラスごとの披露とする、久しぶりの親子遠足は広い場所で現地集合とすることで実現する、など行事の内容や保護者の保育参加の仕方について随時検討し、日常のあそびの様子はポートフォリオにして玄関に掲示するなどし、できる限り保育の様子(子どもの姿、子ども同士の関わり、保育者との関係性等)を見ていただけるよう進めてきました。

4月より子ども家庭庁が発足し、「こどもまんなか」社会が謳われていますが、当園でも、子どもたちが遊び込める環境づくりを検討し、試行錯誤しながら子どもの“主体性”を大切にしたい保育に取り組んでいます。

次年度以降も職員間の共通理解のもと、より良い環境を設定し、応答的なかわりを大事にし、子ども主体の保育を目指します。

◎令和5年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

(1) 安心して過ごせる家庭的な環境の中で一人ひとりを大切にしたい保育を行い、質の高い養護、教育により子どもの育ちを保障

- ① 乳幼児期における情緒の安定や信頼関係の形成、一人ひとりの発達に応じた適切なかわりに留意し、子どもの姿をありのまま受けとめ、子どもが安心して自分の思いを出せるように、子どもの主体性を尊重した教育の安定的な提供に努めた。
- ② 家庭との連携を大切に、子ども達の現状をしっかりと把握して、安心して園生活を送れるようなかわりを持ち、職員間の共通理解のもと適切な支援を行った。
- ③ さまざまな感染症の予防として、手洗い、うがいをこまめに行い、乳児、幼児が早出居残り時間に同じ空間にならないように分かれ、可能な範囲で感染症の拡大防止に努めた。

(2) 乳児保育、特別支援(障がい児)保育等、保護者の多様なニーズに沿った保育サービスの向上と情報の提供

- ① 子ども達の育ちを支え、保護者の子育てを支えるため、0歳児をはじめ、途中入所を多く受け入れた。
- ② 発達の気になる子ども、貧困世帯など社会的な支援の必要性が高い子どもや家庭を含め、子育て家庭や子どもの育ちをめぐる環境の変化をふまえ柔軟に対応した。
- ③ 保護者への緊急連絡の際、公式LINEを活用し、速やかに一斉に知らせるようにした。

(3) 世代間交流事業、異年齢児交流事業、保育所地域活動事業の実践

- ① 地域の高齢者施設、デイサービスを訪問し、園児が作ったプレゼントやメッセージ

を届けた。1か所では、敬老会の一部として室内で交流し、お年寄りに直接会え、喜ばれたことでうれしさを感じ、人を思いやる優しい心を育むことができた。

- ② 地域の小学生と年長児の交流を学期に一度設け、小学校の水泳の授業に参加し、小プールを楽しんだり、おもちゃまつりでは、手作りおもちゃを使って一緒に遊んだり、体育の授業では、ボール遊びやレクリエーションを一緒に楽しむことができ、同じ校区内の園児と、就学前の貴重な体験ができた。当園からは16校の小学校に分かれるため、就学时健康診断や一日入学(実施した小学校は)で小学校に行く機会があり、中には在校生と関わりを持った子もいた。

(4) 職員間の連携を図り、子育てに関する相談、家庭環境に対する積極的な支援

- ① 保護者との連携を密にし、職員会を通じて園全体で子育て及び家庭支援の強化を図った。園児の対応について職員間で連携し、共有する機会を持った。
- ② 家庭環境に対する配慮、専門機関との連携等、保育内容の充実を図るとともに、保護者と保健師、保育士による個別面談、相談の機会を設け園全体で取り組んだ。

(5) 保育士の資質向上と保育水準の向上について

- ① 案内のあった研修についてはできるだけ参加し、資質向上に努めた。zoom研修、オンデマンド研修等活用し、可能な範囲で参加し、職員の自己研鑽に必要な機会の確保に努め、研修後は職員会等で内容を共有した。
- ② 子ども・子育て支援制度、改定保育所保育指針についての理解等、一人ひとりが課題を明確にすることができた。
- ③ 通園バスは使用していないが他県での事故を受け、欠席者の有無、その理由を9時30分には確認することを徹底した。
- ④ 不適切保育について資料を使って園内研修を行い、保育者の言動、対応の仕方について十分注意していくよう確認し合ったり、幼保支援課の「保育の質向上ガイドライン」を活用し、一人ひとりの保育の振り返りを行ったりして、資質向上に努めた。

(6) 保護者の就労支援の為、早出・居残り、延長保育、土曜午後保育の実施

- ① 保護者の就労支援の為、保育の必要な家庭を対象に平日午後7時まで、土曜日は午後5時30分までの保育を実施した。
- ② 中心地であるため早出居残りの利用者が多く、延長保育を利用する児童も年々増加しており、夕方の時間に有資格の保育補助者を雇用し安全にお迎えを待てるよう対応した。

(7) 津波避難計画に基づいた避難訓練や防災活動への積極的な参加

- ① 様々な想定に基づいた訓練を積極的に実施した。
- ② 防災、減災対策の課題を共有しつつ、研修に参加し、マニュアルや対応についての見直しを行った。

(8) 近隣に居住する家庭の少ない園ではあるが、今後の地域の子育て支援の機能を強化すべき取り組みの展開

- ① 地域の子育て家庭とつながることの必要性を考え、園の見学を随時受け入れたり、毎月第1木曜日を「園庭開放」日とし、特に感染症が流行していなければ、保育室の様子を直接見てもらったり、同年代の子どもと、短い時間ではあるがふれあったりして、園や保育について知ってもらう機会を持った。

今年、PTAと協議し夕涼み会を日中に行い、園内での食事は用意せず“まるのうちまつり”として、盆踊りやゲームコーナーを設けることで、園児、保護者との交流の場を持った。バザーは園としては行わなかったが、保護者会連合会主催の「ほごれんまつり」(中央公園で開催)の中で、フリーマーケットを開き、当園の存在をPRする機会があった。

今後は地域の中で当園の存在、当園の保育をアピールして、園児確保や開かれた園づくりを考えていきたい。

令和6年3月31日現在

定員	110名
職員数	31名(正職12名、契約職員11名、パート8名)
	嘱託医 2名 内訳(歯科医1名・内科医1名)
保育時間	平日(7:30~19:00) 土曜(7:30~17:30)
早出、居残り児童	早出児童55名、居残り児童81名、
延長保育利用児童	延べ1395名、月平均利用116名
土曜日の午後保育	登録園児数38名、平均利用人数23名

※ 契約保育士11名中、特別支援担当保育士3名を含む。

※ パート職員8名は、午前の保育補助、延長保育時間対応(4時間~6時間)。

◆在籍児童数

令和6年3月31日現在

年齢別	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
児童数	13	18	16	15	20	23	105

◆年度別:月平均在籍児童数

年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
3歳児以上	54名	49名	50名	62名	58名
3歳児未満	51名	48名	48名	45名	41名
計	105名	97名	98名	107名	99名

◆令和5年度 月別児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	95	95	97	97	96	98	101	99	101	105	106	105
入所	0	0	2	1	0	5	3	0	2	4	1	0
退所	0	0	1	1	3	0	2	0	0	0	1	6

◆職員の資質向上(=研修)への取り組み状況

- 乳児研修・・・・・・・・・・・・・・ 3名
- 保健・救命救急・食育・アレルギー関係研修・・・・・・ 6名
- 保育士研修・・・・・・・・・・・・・・ 23名(高知県保育士会)
- 保育業務に関する研修・・・・・・・・ 42名(zoom、オンデマンド、DVD研修含む)
(特別支援保育研修、家庭支援研修、安全教育研修、保育の日、防災に関する研修)
- 県主催研修・・・・・・・・・・・・・・ 2名

◆令和5年度主要な年間行事

- 4月 入園式、顔合わせ集会(幼児組)、組別懇談会、個別懇談、
高知市交通安全教室(3・4・5歳児)
- 5月 集会、全園児健診、劇団飛行船を観に行く(5歳児)、検尿(4・5歳児)
わんぱくこうちに行く(5歳児)
- 6月 保育参観週間(第2週)、歯科検診、プール開き
- 7月 七夕まつり、まるのうちまつり、夏の水遊び
- 8月 プールおさめ、大掃除
- 9月 通報総合避難訓練、敬老の日地域訪問(5歳児)、敬老の日行事(祖父母への手
紙を出す)、集会、3歳未満児健診、お弁当の日
- 10月 運動会、木曜市の買い物学習(5歳児)、親子遠足(春野運動公園)、
お芋ほり(4・5歳児)、お芋ほりごっこ(0・1・2・3歳児)
- 11月 焼き芋パーティー、全園児健診①②、筆山山登り(3・4・5歳児)、
家族の日プレゼント渡し、就学前健康診断(5歳児)
- 12月 生活発表会、クリスマス会、おもちつき
- R6/1月 初詣、凧あげ、お正月あそび、歯科検診、小学校一日入学(5歳児)
オーテピアみらい科学館へ行く(5歳児)
- 2月 節分豆まき、3歳未満児健診、お店やごっこ、お弁当の日、
交通公園に行く(5歳児)
- 3月 ひなまつり、通報総合避難訓練(火災)、お別れ遠足(エコ・パーク)(5歳児親
子)、お弁当の日、新入園児保護者説明会、おわかれパーティー、卒園式

- その他 ◆ 毎月 誕生会、避難訓練、身体測定(0歳児)を行っています。
- ◆ 隔月 身体測定(1~5歳児)
 - ◆ 個別相談、育児相談は必要に応じて行っています。
 - ◆ 園見学の希望があれば随時行っています。
園庭開放 毎月第1木曜日 電話予約をいただいてからの来園
… 利用者数 延べ5名

開園以来 76 年を経過し、本園は地域園芸農家及び勤労者家庭の児童の福祉増進に寄与してきたところですが、近年、核家族化の進展、急速な少子化の進行、家庭・地域を取り巻く環境の変化に対応し、子どもや保護者に必要な支援が求められています。一人ひとりの子どもが健やかに成長するよう、保護者に対する支援と地域の子育て家庭に対する支援を職員の専門性を活かしながら取り組んできました。

◎令和 5 年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

(1) 一人ひとりを大切にした保育を行い、質の高い養護、教育により子どもの育ちを保障

- ① 子どもの心を受け止め相互的なやり取りを重ねながら、見通しをもった育ちの援助を行った。
- ② 家庭と連携を密にし、子どもが安心して過ごせる場となるよう援助や関わりを行った。
- ③ 年間計画を立て一人一人の成長に合った見通しがもてる保育に努め、子どもが健やかに成長し、豊かな活動に取り組めるよう援助を行った。

(2) 早出・居残り、乳児保育、特別支援保育、家庭支援等、保護者の多様なニーズに沿った保育サービスの向上と情報の提供

- ① 保護者の就労時間に応じた長時間保育を行った。
- ② 乳幼児保育には積極的に取り組み、途中入所も受け入れ園児の増加に努めた。
- ③ 特別支援保育では研修に参加し、専門知識を身につけ保護者とともに子どもの育ちや支援に努めた。
- ④ 家庭支援では、衣服や寝具の洗濯をしたり、常に声をかける、手紙を書く等、保護者が相談しやすい環境を作る努力を行った。又、登園が難しかったり、迎えに来なかったりの家庭には、頻繁に電話をかけたり家庭訪問をしたりして安否確認を行った。時には専門機関と密に連絡をとり支援に繋げていった。

(3) 世代間交流事業、異年齢児交流事業、園庭開放等保育所地域活動事業の実施

- ① 園庭開放は、年間 5 名の来園者があり入園にも結びついた。
- ② 異年齢児交流では、卒園児童を「里帰り」と称して招待し、ゲームを楽しんだり、保育士が劇を披露したりして交流をはかった。日常の保育の中では豊かな生活体験をはじめ、保育内容の充実を図る為、異年齢児と関われる様、環境設定を行った。
- ③ 毎年、老人施設の訪問をする事で、人をいたわり、思いやりの気持ちを育むことを目的として世代間交流事業を行っている。施設利用者、又、自身の祖父母に日頃の感謝の気持ちを込めて、手作りのプレゼントを渡した。
- ④ 新型コロナウイルスの扱いが 5 類になった事を機に、園恒例の施設慰問を再開した。6 月にシルバーマリン、7 月には海の里と両老人保健施設慰問を行った。和太鼓演奏、よさこい踊り、合唱、手遊び等を披露し、利用者の方々に喜んでもらった。

(4) 職員間の連携を図り、子育てに関する相談、家庭環境に対する積極的な支援

- ① 職員会や園内研修などで、園児の特性等の情報を職員間で共有し、個々の対応に連携して取り組んだ。
- ② 家庭環境に対する支援については、職員間の連携を図り又、子ども家庭支援センター・児童相談所とも協働・連携した取り組みを行った。

(5) 保育士の資質向上と保育水準の向上

- ① 保育実践や研修などを通じて保育の専門性を高め、職員同士の共通認識をもった取り組みをした。キャリアアップ研修にも参加し質の向上に努めた。

(6) 保護者の就労支援の為、延長保育の実施

- ① 保育が必要な家庭を対象に、平日午後7時00分までの延長保育に努めた。また、就労だけでなく家庭状況に応じて対応した。

(7) 園児の体力づくりのための体操指導、英語講師による異文化への関わりの実施

- ① 体を動かす楽しさ、大切さを知り柔軟な体づくりに取り組んだ。
- ② オーストラリア出身の講師と一緒に英語を交えたゲームや遊びの実施に取り組んだ。

(8) 避難訓練や防災活動の実施、及び関係機関との連携

- ① 自園の訓練計画に基づき、火災や地震津波避難訓練を定期的実施しているが、今年度も、地域の中学校との合同避難訓練を行った。また、高知東警察署・三里交番の方とも合同訓練を行った。それぞれの機関より評価をいただき、その結果を次の訓練に活かすようにしていった。
- ② 防災備蓄物品については、避難場所である三里中学校に協力をいただき、毎年、点検や補充を行っている。令和5年度で、水、食料品の2日分(園児及び職員人数分)とオムツ、マスク、簡易トイレなどが備蓄できている。
- ③ 12月には地震・津波避難訓練の後、防災DVDを見て地震避難の学習を行った。
- ④ 不審者対策として、各学期毎に様々な想定をふまえた不審者訓練を実施した。
6月には、子どもの安全に関する知識・技術の向上を図る為、又、不審者侵入時に職員及び園児への対応方法を保護者に知ってもらう為に、参観日終了後、保護者に不審者役をしてもらい実技訓練を行った。保護者の方には、園の安全管理について考えてもらうよい機会となった。

(9) 健康の取り組み

- ① 4、5歳児を対象として、週5回、フッ化物洗口液でうがいを行った。
- ② 園児が「痙攣を起こしたらどうするか」をシミュレーションし園内研修で振り返りを行うことにより対応について理解を深めた。園の看護師指導のもと、乳幼児の心肺蘇生人形とAEDトレーナーを使用し、園内研修で実技研修を行った。
- ③ 3～5歳児を対象に歯ブラシ指導を行った。
- ④ 感染予防対策として、各クラスの園児を対象に、園の看護師による健康教育として「手洗いチェッカー」をつかった手洗い指導を行った。

- ⑤ 熱中症対策として、毎日熱中症指数を掲示し職員への注意を促した。

(10) 食育の取り組み

- ① 毎月 19 日の「食育の日」を職員に意識させ、食に関する絵本を読み聞かせる等園児に食に興味を持たせる様にした。
- ② 幼児組を対象に、クッキング保育や年 3 回の食育集会、年長児に向けて「だし」の味比べをして和食の大切さを知らせた。
- ③ 保護者に向けて食育だより・給食だよりの配布、行事食についての提示、子どもの好む給食やおやつレシピの配布等を行い、関心を持たせた。

(11) ICT業務効率化事業導入

- ① 登降園時にはタブレットと視認と二重にチェックをする事で子どもの人数把握を確実にする事が出来た。
- ② 園のホームページを活用し、写真販売や保育計画の立案等、情報配信を行った。

◆組織の状況

令和 6 年 3 月 3 1 日現在

定員	令和 5 年 7 月より定員 60 名
職員数	14 名（正職 8 名、臨職 2 名、パート 4 名）
保育時間	平日（7:30～19:00） 土曜（7:30～17:30）
早出、居残り児童	早出児童 40 名 居残り児童 48 名

※嘱託医内訳（歯科医 1 名・内科医 1 名）

◆在籍児童数

令和 6 年 3 月 3 1 日現在

年齢別	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	合計
児童数	6	6	10	13	9	15	59

◆年度別：月平均在籍児童数

年 度	元年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
3 歳児以上	46 名	39 名	40 名	36 名	35 名
3 歳児未満	40 名	38 名	31 名	25 名	20 名
計	86 名	77 名	71 名	61 名	55 名

◆令和 5 年度 月別児童数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
総数	51	51	51	51	52	55	57	57	57	59	59	59
入所	0	0	1	0	1	3	2	0	0	2	0	0
退所	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

◆職員の資質向上(=研修)への取り組み状況

- 乳児研修・・・・・・・・・・2名
- 給食関係研修・・・・・・・・ 2名
- 保育士研修・・・・・・・・・・25名(高知県/高知市/全国保育士会)
- 保育業務に関する研修・・15名(特別支援保育研修会・発達支援、リズム&ダンス研修・人権研修他)
- 防災研修・・・・・・・・・・1名
- 保健関係研修・・・・・・・・・・12名

◆令和5年度主要な年間行事

- 4月 入園式・対面の日、内科健診、火災避難訓練、幼児・乳児組懇談会
- 5月 家族の日、地震津波避難訓練、こいのぼり運動会ごっこ、里帰り、歯磨き指導、人形劇観覧
- 6月 歯科検診、火災避難訓練(雨の日想定)、尿検査(4・5歳児)、不審者訓練、参観日、シルバーマリン慰問(年長児)、交通安全教室
- 7月 プール開き、七夕笹飾り、みさとまつり、海の里慰問(年長児)、地震津波避難訓練
- 8月 火災避難訓練
- 9月 地震津波避難訓練(東警察署・三里交番合同)、敬老慰問、実習生受け入れ
- 10月 運動会、内科健診、火災避難訓練(消防立ち合い・通報訓練)、園外保育、お芋掘り
- 11月 地震津波避難訓練、記念写真、年長児お買い物、保育の日、勤労感謝慰問、歯科検診、就学前健康診断、実習生受け入れ、三里小学校オモチャ祭りに参加
- 12月 もちつき、生活発表会、クリスマス会、地震津波避難訓練、不審者訓練
防災教育(DVD視聴)
- 6年/1月 幼児・乳児組懇談会、中学校合同避難訓練(東警察署・三里交番立ち合い)
お正月遊び・クッキング保育・お弁当の日、焼き芋クッキング(年長)
- 2月 豆まき、火災避難訓練、小学校一日入学、お店屋さんごっこ(お弁当の日)、サッカー教室、フッ素洗口指導(高知市保健師指導)
- 3月 卒園式、新入児保護者会、不審者訓練(保護者の協力)、火災避難訓練
種崎作品展展示参加、お別れ遠足、お別れパーティー
- その他 ◆ お誕生会、火災避難訓練、体操・英語教室は毎月行っている。
◆ 食育集会、健康集会を学期に1回行っている。